

事業概要

地域の課題に対して、参加者の相互学習を通して、深く掘り下げて学ぶ連続講座。
受講者の知識習得のほか、自主的に何らかの取り組みに参加できるよう促すことを目標とする。

総実施回数	延べ参加者数	
	大人	保育
5	78	希望者なし

事業名	コロナを検証してみても何かつかんでほしい講座です。
講座の目的	感染症に対する正しい知識と自分たちの生活の律し方、コロナ禍による、社会的問題、風評被害やデマなどの正しい知識と対処などを数回にわたり学び、最終回は自分たちの思いや考えを整理する講座とする。
募集方法	広報11月号、チラシ配布、HP掲載

チラシ1

《令和2年度学び舎ゼミ》 **ラインナップ**

コロナを検証してみても何かつかんでほしい講座です。

<第1回>
感染症専門医の第一人者が語る 目からウロコの感染症対策
どんな感染症にも向き合える心構え
11月27日(金) 14時～16時
この時期先生が病院を離れないためこの回のみ会場が浪切ホールになり、リモートでの講座となります。
場所：南海浪切ホール 1F多目的ホール
神戸大学感染症内科教授 岩田健太郎氏

<第2回>
コロナで社会に何が起ったか。私たちが知ることができることは？
12月2日(水) 18時半～20時半
大阪府認定子どもサポーター 辻 由起子氏

<第3回>
コロナ禍で子どもと子どもを取り巻く人たちの今。最前線のお話を聞く
12月12日(土) 13時半～15時半
ゼロ会代表 浜辺祐臣氏

<第4回>
デマ、風評被害、踊らされない。そんな自分になる。
12月19日(土) 13時半～15時半
関西大学 社会安全学部教授 土田昭司氏

<第5回>
シェア回みんなで語ろう
12月26日(土) 13時半～15時半
定員40名(1回のみ60名)(保育あり)
場所 ①南海浪切ホール ②～⑤洋和田市立公民館
問い合わせ・申込 072-423-9615
shitsukouza@city.kishiwada.osaka.jp

チラシ2

令和2年度学び舎ゼミ 主催/市和洋和市民館

コロナを検証してみても何かつかんでほしい講座です。

STAY HOME、ソーシャルディスタンス、3密回避ナトリウム、エタモ。聞きなれない言葉も当たり前に、テレビでの情報にいろいろ思い、生活の中で考えたり、心配したり、怒ったり。それぞれに感じているように、今まで起こったことを各分野の先生から専門家ならではのお話を聞き、最終回は自分たちの思いや考えを整理してこれからの生活に活かしてみませんか。

講座	内容	定員	日時
① 岩田 健太郎氏 神戸大学 感染症内科教授	そもそも感染症って？あの時どうすればよかったの？正しい予防方法、対策、これからの生活について	60名	11/27(金) 14時～16時 この回のみ浪切ホール1Fにてリモート講座です。
② 辻 由起子氏 大阪府認定 子どもサポーター	社会的被害といわれる方にコロナで何が起ったか。断ることではない様々なこと。	40名	12/2(水) 18時半～20時半 市立公民館
③ 浜辺 祐臣氏 ゼロ会代表	コロナがもたらす子どもと、困る人々たちへの影響と社会問題	40名	12/12(土) 13時半～15時半 市立公民館
④ 土田 昭司氏 関西大学 社会安全学部教授	風評被害、思い込み。ネットで流れる不確かな情報に振り回されない。知って賢く対処しよう。	40名	12/19(土) 13時半～15時半 市立公民館
⑤ 市和洋和市民館 市民館職員	4回を学んで、自分たちが経験した事とこれからの生活に活かしてみませんか。	40名	12/26(土) 13時半～15時半 市立公民館

問い合わせ・申込 072-423-9615
shitsukouza@city.kishiwada.osaka.jp

保障：詳しくはお問合せ下さい 【全額返金の方優先】

チラシも見てね!!

第1回			
学習テーマ	感染症の第一人者が語る どんな感染症にも向き合えるココロ構え		
講師肩書・氏名	神戸大学感染症内科教授・岩田 健太郎		
日時	11 月 27 日 金曜日 14 時 00 分 ～ 16 時 00 分		
場所	南海浪切ホール・多目的ホール	参加者数	大人 34 人 保育 人
内容（概要）			
リモートでの講座となり、会場は浪切ホールでの開催となった。 講師もリモートに慣れておられ、グラフや資料を取り入れスムーズに講座が進んだ。最初に会場に対して甘い話か辛い話かという問いかけがあり、会場からは辛い話でという声が一斉にあがった。これで会場が和み、話も入りやすくなった感があった。内容は多岐にわたり、情報弱者にならない事、ウイルスの特性からマスクの効用、り患者が増えたときの個々の対処や考え方などであった。質疑応答も多く、中でも医療従事者の方からの医療の現場の大変さが伝わる質問には、助けになる様な回答をいただいた。			

第2回			
学習テーマ	社会的弱者といわれる方々にコロナで何がおこったか。		
講師肩書・氏名	大阪府認定子どもサポーター・辻 由起子		
日時	12 月 2 日 水曜日 18 時 30 分 ～ 20 時 30 分		
場所	市立公民館	参加者数	大人 18 人 保育 人
内容（概要）			
シングルやリスク多めの子育て家庭の支援をされている中での、予想していたより厳しい現状のお話であった。支援する行政などがSNSの広がりについていけないことや、多くの困っている方が行政の支援を受けるまで個人ではたどり着けないような境遇にあるという話に暗澹とした気持ちになった。親子の居場所となる場所が緊急事態宣言で閉まってしまい、コロナで休校になり親子が孤立したり、助けてと言えず、つらい思いをして子どもに手を挙げる例も多くあった。2度目の緊急事態宣言が発令されても活動を止めてはいけないという講師の言葉にうなずく受講者も多かった。行政のできる事と、届け方を考え、「人間は群れで生きる」という話通り、それぞれが自分のできる事を無理せずに行えることからしていくことの大切さを学んだ。			

第3回			
学習テーマ	コロナ禍で子どもと子どもを取り巻く人たちの今。最前線のお話をきく。		
講師肩書・氏名	ゼロ会議代表・浜辺 拡臣		
日時	12 月 12 日 金曜日 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分		
場所	市立公民館	参加者数	大人 10 人 保育 人
内容（概要）			
まずは「ゼロ会議」が、子ども虐待死0をめざし親を助け、支援する目的の活動団体で、期間限定の活動である事などを聞いた。コロナ禍の現状では危機感しかなく、長い休校で、家庭での不協和音などしんどい親子も増え、公園など遊ばせるのも周りの目を気にしたり、児童虐待ホットライン189に通報された親などますます孤立する家庭が増えた。また休校明けも学校に行けない児童も増加した。そのような家庭に対してのゼロ会議の支援の仕方や、アプローチ、支援団体をいかに増やすかの話があった。従来の子育て支援活動と一線を画した活動で、親の気持ちを楽にし、ミュージックサーカスのイベントなどで大規模な保育をする一方、一時避難の宿泊施設の設置や傾聴の方法などの周知、ジャンル別大阪府の相談窓口をホームページにあげるなどの様々な支援の形を聞いた。			

第4回			
学習テーマ	デマ、風評被害、踊らされない拡散しない。そんな自分になる。		
講師肩書・氏名	関西大学社会安全学部教授・土田 昭司		
日時	12 月 19 日 金曜日 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分		
場所	市立公民館	参加者数	大人 15 人 保育 人
内容（概要）			
かなり専門的な内容でレジュメも密度の濃い内容だった。まずは関西大学での教育研究緊急支援で採択された「8月における人々の心理と行動」の調査結果から、市民の行動認識をデータを見ながら掘り下げて説明してくれた。次に風評被害の発生のメカニズムを学術的にヒトの認知の仕組みなどでお話し下さり、実際の起こっている事柄でも欲求や感情によって、現実の認識が作られ、同じコロナ禍の世の中でも、対応が様々なのは人の気持ちの感情などの動きが多分に影響されるということがよくわかった。自分たちが生きている情報空間の中でよくわからないコロナというものに、他の人はどう思っているか？世界ではどんなことになっているか→みんなが思っているから正しいという（白黒つけたほうがストレスがなくなる）ことが風評被害になっていくという話であった。流言も状況が曖昧なほど発生、流布する傾向があり、嘘でもいいのでとにかく安心・納得したいという人の気持ちの動きなど、始終興味深い内容だった。			

第5回			
学習テーマ	シェア回 みんなで語ろう。		
講師肩書・氏名			
日時	12 月 26 日 金曜日 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分		
場所	市立公民館	参加者数	大人 1 人 保育 人
内容（概要）			
2人から欠席の連絡があり、当日は結局1人のみの出席だった。職員2人で行った。ゼミを受講したきっかけは介護系の職についておられ、同僚から岩田先生の話聞き、また実際本も読んでおられたことから申し込みしてくださったという事だった。1回目～全回出席されていたので1回目からの振り返りを行った。自身が介護職なので、岩田先生の話はストンと落ちるところがあり、興味深かったということだった。2回目3回目も周りで起こっていることに驚いたこと、4回目で情報は1度自分の中でよく考え判断しないといけないと感じたとのことだった。介護の現場での心配なことなどもお話下さった。またこういった内容の講座は職場などでシェアするというありがたいお話だった。			